

タンクステン調達多角化

富士ダイス 試験回収を開始

富士ダイスは、主力の超硬製品の原材料であるタンクステンの調達多角化に向けた施策を推進する。使用済み工具・金型のリサイクルを実現するため、試験的な回収を10月に開始。調達先と協力して、使用できるタンクステン原料の範囲を広げる取り組みも進めている。中国の輸出規制でタンクステンが世界的にひっ迫する中、調達リスクや価格高騰への耐性を高める。

使用拡大の取り組み推進

中国は2月、タンクステンなどの輸出規制を強化。世界的に逼迫感が強まり、価格が高騰した。同社の2025年度中間決算（4～9月）では、原材料費

現在は関東地区を中心に試験回収を行っているが、全国の営業網を活用してできるだけ早く回収先を増やしていきたい考え。海外の取引先からの回収も視野に入れる。

長は欧米など中国以外からは26年度にかけ安定した原料調達が見込めるとの展望を示した。ただ、中国に依存している部分はまだまだ

追加の価格転嫁検討

原料高で26年度から

富士ダイスは、原材料価格の高騰などを受けて追加の価格転嫁を検討している。原料のタンクステン粉末の価格が想定より上がって

部値上げに動いてきた。中間決算説明会で、春田善和社長は「これが下期からは少しずつ効いてくる」との見方を語った。

世界的にタンクステン需給が逼迫する中、原材料が制約要因となり増産が難しくなるケースも想定される。春田社長は「一部の製品については価格を上げざるを得ないかもしれない」との見解も述べた。